

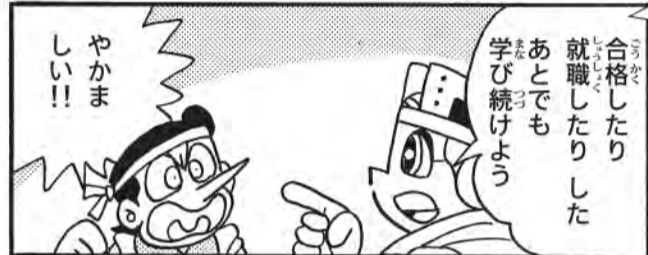
論語くん

まんが 三谷 幸広 監修 竹内貴久雄

2444



子張第十九より



子夏曰く、仕えて優なれば、則ち学ぶ。学びて優なれば、則ち仕う。

意味

「子夏さんが言いました。「就職した後でもゆとりが生まれたら、勉強をさらに進めることが大事です。でも

普通の人は、勉強をしつかりやって多少のゆとりが生まれると、その時点で就職してしまつて終わりです」

第12回 探偵サバイバル!

作 佐東みどり
絵 T A K A

「何なんだ、この名札は?」
マネキンに貼られた名札には、青色で「ハズレ」と書かれている。
「こっちのマネキンも名札がついてるけど、同じように「ハズレ」って書いてるわね」
花鈴の言葉を聞き、勇汰は周りのマネキンを見る。他のマネキンも同じように名札には青色で「ハズレ」と書かれていた。
謎王はスピーカー越しに、その意味を一同に伝える。



「ほとんどのマネキンには「ハズレ」の名札がついていますが、ほんのわずかな数ですが「アタリ」の名札をつけているマネキンがいます。宝探しゲームとは、その「アタリ」の名札をつけたマネキンを見つけ出すというもの。制限時間は60分。ヒントはスマホをこらんください」
「スマホを?」
勇汰はスマホを見る。すると画面に文字が表示された。
■60分以内に「アタリ」の名札をつけたマネキンを見つけ出せ。「アタリ」は、赤いふくおきたマネキンが導く■
「赤い服?」
勇汰は再び周りのマネキンを見る。しかし、マネキンはどれも白や黒など、赤以外の服を着ていた。「どうやら、町中を探して赤い服を着たマネキンを見つけ出さないといけないようね」

花鈴は真剣な顔で言う。
「なるほど。だから宝探しなんだね」
勇汰が納得すると、謎王がしゃべった。
「みなさん、ただ、「アタリ」を探すだけではつまらないでしょう。だから、こういうのも用意しましたよ」
瞬間、物陰から数人の影が現れた。
黒い服を着て、仮面をかぶった謎王の部下たち。謎王はスピーカー越しに一同に語りかける。
「彼らに捕まれば、ゲームオーバーとなります。君たちは、探偵手帳を燃やされ、ただの小学生になる。さて、誰が謎を解き、探偵として生き残ることができるのかな? その推理力を私に見せてください!」
ウウウウウ。再びサイレンが鳴り響く。同時に、仮面の男たちが小学生探偵たちに向かって走ってきた。
「うわああ!」
勇汰は思わずパニックになる。
そんな勇汰に花鈴が声をかけた。
「勇汰くん、こっち!」
「え、あ、うん!!」
小学生探偵たちが一斉に逃げ出す。勇汰も花鈴とともに、その場からあわてて逃げ出した。今、探偵サバイバルが始まった!